



## プランクトンの観察

学習のねらい		
<p>○びわ湖のいろいろな場所の水にプランクトンが生息することに気づき、水と自分たちのくらしの結びつきについて興味・関心をもつことができる。</p> <p>○魚とプランクトンの関係について考え、食物連鎖と生態系のバランスについて考えることができる。</p> <p>○びわ湖のいろいろな地点での水のごりの違いやプランクトンの多様性について知ることで、広大なびわ湖が育む多様な生態系について考えることができる。</p>		
準備物		
うみのこ船内で準備できるもの		乗船校で準備するもの
<ul style="list-style-type: none"> <li>・プランクトンネット   ・<u>(電子黒板)</u>   ・<u>デジタル顕微鏡</u></li> <li>・プランクトン観察用具   ・採取場所の港の水</li> <li>・食物連鎖パネル   ・<u>(タブレットPC)</u>   ・<u>水中カメラ</u></li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>プランクトンの観察ワークシート</u></li> <li>・地域の水を比較観察する場合は地域の水</li> </ul>
主な学習の流れ		ポイント（○）及び留意点（☆）
はじめ	1. 本学習のめあてを確認する。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識して示す。
なか	2. 見つけたプランクトンの種類やそれぞれのプランクトンの数、各地点の特徴を記録する。	☆顕微鏡の使い方については航海前に指導しておくことが望ましい。 ○水のごりの主な原因がプランクトンであることがわかるように、にごった水をろ過して、抽出するとプランクトンがたくさん出てくることを示す。 ○北湖と南湖で比較できるとよい。
おわり	3. 「食う食われる」の視点から、プランクトンと魚の関係や生態系のバランスについて考え、交流する。	○水のごりは、びわ湖の生き物にとって必要なものであることに気づけるように、食物連鎖パネル等を使用する。
おわり	4. 本学習のまとめをする。	○フローティングスクールのテーマとのつながりを意識してまとめができるようにする。 ○学習のまとめや乗船後の学習につながるようにする。

（※1）活動場所・・・ 多目的室・実験室

（※2）実施時期・・・ 通年

※うみのこ船内で準備できるものについては、児童・指導者の人数や班の数に合わせて準備することもできます。